

根来山げんきの森倶楽部

令和5年12月作業日誌



活動日：令和5年12月17日(日) 9:30～15:30 天気：晴れ 倶楽部員：53人

明けましておめでとうございます。倶楽部員の皆様、今年もよろしくお願ひします。
令和5年最後の作業は、ちらほらと雪の舞うなか行われました。整備された森の向こうに見えるであろう、ヤマザクラの咲く季節が楽しみです。

うるし谷整備

うるし谷班は総勢12名で2グループに分かれました。時折り粉雪が舞う中、白い息を吐きながらの作業でした。

森林整備として高さ20m超級の榎木とコナラの2本伐採と整理作業。

コブシ川の護岸作業では劣化した杭の補充作業。

いずれも寒さから身を守るため一心不乱に身体を動かしていました。(櫻井 敏夫)



きっとイケメン！
知らんけど！

絶対イケメン！
知らんけど！

里山整備

管理車道下斜面で株立ちになっているアラカシとウラジロガシが大きく育ってきてむくのき原方面の眺望を妨げてきたため、これを処分することにしました。

カシは薪にも炭にもできる素敵な材料なので、道下ではありますが何とか引き上げて利用することにして、事前に5mのヒノキ丸太を伐ってきて引き上げ用の支柱を立て上げておきました。

当日はこの支柱の先に滑車を付けそこに林内作業車のワイヤーを通して切り倒したカシを引き上げていきます。

株立ちのアラカシを切り倒し、引き上げられる程度の長さに切断して引き上げていくのですが、長いものはどうしても枝先を人力で引き込んだりしないといけないのでけっこう重労働です。

道路に引き上げたカシ材は 1.2m の常寸に切断して道端に積み上げていきます。

馬力のある林内作業車はいい仕事してくれますが、10 本以上にも株立ちしたアラカシは 4 本や 5 本切り倒してもあまりかさが減ったようには感じません。

この日はアラカシの株を半減させたところで作業終了。次回はなんとかこの株を坊主にしてみたいものです。

このアラカシとウラジロガシがなくなると、20 年前には眺められていたむくのき原に向かう谷に咲きそろふ見事なヤマザクラを一望する風景が復元されるはずです。

みなさん、お楽しみに。 (岡田 和久)



豚汁作り



私達は雪が降る中で、総勢 6 人で豚汁を作りました。

今日の具材のラインナップは人参、葱や蒟蒻、豚肉やちくわ、あげ、椎茸等々、種類豊富でしたが、やはり本日のスポットライトは S さんが丹精込めて育てられた絶品の白菜と大根でしょう。

温かく、具たくさんなので空腹も満たせて満足感の感じられる仕上がりになったと思います。

(宮芝 菜里)

炭出し



本日は、10名の参加で今シーズン最低気温 3℃初雪の中での炭出し作業です。

変色している炭やノコギリで切れにくい炭は、直ぐに七輪で焼いて異常がないか確認しながら品質を確認しながら製品としました。10cmの長さにカットして 10kgに計量し袋詰めを行います。今日の出来高は 160kgでした。

午後からは、Hさん提案治具での溝の枯葉取り。伐採していた桜の炭材づくりと薪割り作業。道路補修、屋根の上の枯葉取りとやることが多くありましたが持ち場立場で分担して作業を終えることが出来ました。皆様お疲れ様でした。(須山 佳則)



はじめまして。

撮影担当のゆきんこです。

2回目の活動日参加でした。
この日は雪が何回も降って極寒でしたが、作業してる皆さんのパワーやげんきの森を愛する想いに触れ、私の心はほっかぽかでした！！

1人で歩いている時は少し寂しいのですが(笑)道の途中で発見したお目目付きの木に癒され、つい話しかけてしまいました。こんなちょこっとした工夫、大好きです！

ゆきんこさんが作業の撮影担当になりました！！

やあ

「暑かった一年」

令和5年の年間平均気温は過去20万年で最高になりそうだとのこと。それだけ温暖化が進んでいるということなのでしょうが、げんきの森で活動していてもけっこうその影響を感じました。

冬には2度の大雪に見舞われました。温暖化は日本海を温め多くの水蒸気を偏西風に乗せるので日本は大雪になります。

短い春を迎えて桜たちは大急ぎで花を咲かせ、夏の暑さでキノコは不作でした。

夏のゲリラ豪雨は炭焼き小屋周辺の谷を溢れさせ、流れ出た土砂の処理が大変でした。

長い夏の後の秋は短く、12月になっても20℃を超える日も見られ、遅い紅葉は年末まで楽しめました。

令和6年はどんな年になるのかわかりませんが、私たちが自然のサイクルの中で森とともに活動していくことに変わりはありません。

何が起ころうともそれらの現象を受け入れながら楽しんでいきましょう。

みなさん、今年もよろしくお願いいたします。

岡田 和久

編集:谷藤 秀子